

がんサバイバーシップ研究支援事業

寄付金募集趣意書

令和2年4月

公益財団法人がん研究振興財団

1. ごあいさつ（理事長 堀田 知光）

当財団は、がんの制圧に対する国民の強い要望により、国の政策のほか一般の方々からの浄財を有効にがんの治療や予防技術の開発に役立てるため、昭和40年12月に「がん研究振興会」として発足し、平成24年4月1日内閣府から「公益財団法人がん研究振興財団」として認可を受けております。

当財団は、がん研究に関する助成、若手研究者の育成事業を中心に携わって実施してきましたが、がん対策基本計画に基づく新たな国の戦略を踏まえ、今までに無かった「がんサバイバーシップ」の研究支援事業を平成27年度より企業の皆様から賛助を募り行っております。

これまでも企業の皆様にご理解・ご協力を頂きまして研究助成事業を続けて参りましたが、更に幅広くがん研究支援事業を推進することとしておりますので、これまで以上にご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 財団の活動概要

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力

3. 寄付事業の概要

事業の実施に当たっては、がん経験者、企業、医療関係者、学識経験者等から構成される「がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会」において次の事項について審議します。

- (1) がんサバイバーシップ研究助成事業を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究助成金による研究成果は、その評価を兼ねて研究成果発表会、セミナーを開催（公開）

4. 寄付のお願い

国によるがん研究における戦略目標としての具体的研究事項の一つに「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」が課題とされております。

患者本人や家族が本来の生活の場所（家庭、職場、学校、地域コミュニティ

など)で暮らしていく過程で直面する様々な課題解決に関する研究については、研究実績が乏しいことから官民一体となった研究を推進する必要があります。

当財団では、企業等の皆様のご理解を頂き平成27年度からがんサバイバーシップ研究支援事業を立上げてまいりましたが、その成果に対して関係者から高い評価を頂いております。

つきましては、がんサバイバーシップの研究支援につきまして引き続きご賛同賜りますようお願い申し上げます。

寄付事業の概要

1. 事業の名称

がんサバイバーシップ研究支援事業

2. 目的

がんの診断や治療を受けた「その後」を生きていくプロセス全体として、がんが長く付き合う慢性病に変化しつつある今日、「診断から治療後も充実した社会生活を送る」ための研究支援を行うことを目的とする。

3. 事業主体者

公益財団法人 がん研究振興財団

4. 事業内容

- (1) がんサバイバーシップ研究を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究成果を市民公開講演会等で発表し、広く国民に還元

5. がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会（委員）

	氏 名	所 属
委員長	石塚 正敏	跡見学園女子大学マネジメント学部 教授
委 員	児玉 哲郎	栃木県立がんセンター 名誉所長
	高橋 都	国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援部 元部長
	竹内 朋子	東京保健医療大学東が丘看護学部 教授
	田中 徳雄	日本製薬工業協会 常務理事
	中川原 章	公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団 理事長

6. 令和元年度事業実績

(1) がんサバイバーシップ研究助成金交付者 (10名総額 420万円)

氏名	所属施設名	職名	申請研究課題名
内田 恵	名古屋市立大学病院 緩和ケア部	助教	がん治療後も残存する倦怠感と精神心理的苦痛を軽減するためのウェブツールの開発
平山 貴敏	国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科	医員	スクリーニングツールを活用したAYA世代がんサバイバーシップケアの開発
森下 慎一郎	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部	准教授	乳がんサバイバーの続発性リンパ浮腫を予防し、QOLを向上させるための予防的リハビリテーション方法の検討
松井 基浩	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科	医師	AYA世代がん患者の心理社会的困難及び成長に関する調査研究 2年後コホート研究
尾瀬 功	愛知県がんセンター がん予防研究分野	主任研究員	胃がん・大腸がんサバイバーの治療後のうつと関連する社会的・経済的要因の探索
関 由起子	埼玉大学 教育学部	教授	小児がん患児への特別支援教育の新たな役割：未来志向の教育に向けて
大塚 泰正	筑波大学 人間系	准教授	がんサバイバーの就労を支援するキャリアカウンセリング法の開発ー働くことの意味づけと回復期の心理的適応プロセスの関連ー
山邊 恵里	早稲田大学大学院 法学研究科	科目等履修生	がんサバイバーのための合理的配慮ー就労を通じた社会参画にむけた権利性の法的考察ー
木下 由美子	宮崎大学 医学部看護学科	教授	前立腺がんサバイバーのQOL向上を目指した支援モデルの構築
福島 卓矢	国立がん研究センター中央病院	理学療法士	がんサバイバーに対するリハビリテーション支援体制の構築

(2) がんサバイバーシップ研究成果発表会・セミナーの開催

開催日：令和2年2月6日（木）

会場：国立がん研究センター研究棟セミナールーム

内容：第1部 がんサバイバーシップ研究成果発表会

平成30年度助成金交付者10名による研究成果発表

第2部 がんサバイバーシップセミナー

「ケア提供者としてがんサバイバーを支えるということ」
をテーマに京都大学大学院教授 田村恵子先生による講演
(同封の抄録をご参照下さい)

7. 事業期間

第1期：平成27年度～平成30年度（4年間）

第2期：令和元年度～令和3年度（3年間）

(国の「がん研究10か年戦略」に基づく重点研究領域を踏まえ事業の更新)

8. 令和2年度 総事業費（収入・支出の内訳）

総収入	800万円	（寄付金収入の予定）
支出	800万円	
うち、事業費	800万円	
(1) 研究助成金	500万円	（@50万円×10名）
(2) セミナー等	300万円	
謝金	75万円	
旅費	75万円	
印刷・製本費	50万円	
機材等	100万円	

9. 寄付募集額（毎年募集）

募集額は明記をしておりますが、50万円以内を目安にご検討頂ければ幸甚です。

10. 募集期間

令和2年度分は、令和2年5月1日～

11. 税制上の措置

当財団は「公益財団法人」の認定を得ていますので、本財団に対する寄付金は減免税の特典が受けられます。